

県立図書館だより

平成26年2月

青森県立図書館報 第18号



新館開館20年

ありがとうございます。これまでも、これからも。

平成26年3月、青森県立図書館新館と青森県近代文学館が**開館20周年**を迎えます。平成6年3月22日の開館から間もない4月10日(日)は、図書館に4,402人、近代文学館に1,035人と一日で5,000人以上の来館者がありました。(青森県立図書館報『三潮』第141号) 県民の皆様が、どんなに待ち望まれていたかが分かります。

県立図書館・近代文学館の所蔵資料数は、開館した頃は647,351冊(H6.3.31)でしたが、24年度末では、1,031,951冊となっています。地域を支える情報拠点として、今後とも資料の収集をはじめ、図書館サービスの充実を図ってまいりますので、**これからも県立図書館・近代文学館をどうぞご利用ください！**



見学者の写真(『三潮』第139号より)

県立図書館の20年をプレイバック！

6年3月22日	新館・近代文学館開館 コンピュータシステムによるサービス開始
3月25日	旧図書館跡地にブックポスト設置
11年12月7日	インターネット蔵書検索開始
12年4月1日	祝日開館開始
15年6月27日	近代文学館の入館者が20万人突破
16年7月1日	オンライン貸出サービス開始
7月19日	月曜開館開始
17年8月30日	県内図書館・公民館図書室等が参加する相互貸借のためのインターネットシステムの全面稼働開始
21年1月17日	3月15日まで「青森県立図書館80年のあゆみ」展開催
21年4月1日	遠隔地返却サービス開始
10月1日	県内7大学等図書館との相互貸借などを開始
22年1月30日	児童閲覧室利用者100万人達成
26年3月22日	新館開館20周年



県立図書館・近代文学館落成を記念して作製されたテレホンカード(上図・個人蔵)の写真には、オープンを記念して催された「あおもり野外彫刻展'94」の大賞作品「森の風」(右図)が設置されておらず、工事完成後間もない写真であることが分かります。



目 次

新館開館20年.....	1
大学連携最新情報.....	2
こんなレファレンスがありました.....	3～4
子どもの本の紹介.....	5
郷土資料の紹介.....	6
近代文学館資料の紹介.....	7
カウンターからひとこと.....	8

大学連携 最新情報

県立図書館では、県民の皆様の多様かつ高度化する学習活動を支援し、地域を支える情報拠点として、地域の課題解決や振興を図るため、大学をはじめとする高等教育機関附属図書館が所蔵する豊富な専門書などの資料を県民が手軽に利用できるよう、**県内の大学等図書館との連携・協力を進めています。**

昨年12月には、新たに**弘前学院大学附属図書館**が加わり、現在は、11の大学等図書館との間で連携・協力を進めています。

大 学 等 名
弘前大学
県立保健大学
青森公立大学
北里大学獣医学部
青森中央学院大学・中央短期大学
弘前学院大学
弘前医療福祉大学
八戸工業大学
八戸学院大学・八戸学院短期大学
青森明の星短期大学
八戸工業高等専門学校



弘前学院大学正門



図書館外観

大学との連携・協力内容の中から、主なものを紹介します。

1 横断検索

上記のうちの9つの大学等図書館の所蔵資料を「横断検索」することができます。

「横断検索」とは、複数の図書館の所蔵資料を一元的に調べることができる仕組みで、当館を含む県内17の公共図書館等と大学等図書館の所蔵資料を検索することができます。これにより、お探しの資料の所在を確かめる作業が大幅に軽減されます。

詳しくは、[県立図書館ホームページ](#)をご覧ください。

2 相互貸借

横断検索でお探しになった資料は、**県立図書館を通して貸出・返却**ができます。

貸し出しできる期間や冊数は、それぞれの大学図書館等で異なりますので、当館へお問い合わせください。

申込み及び問い合わせ先 参考・郷土室（TEL017-729-4311）

～ こんなレファレンスがありました ～

【第18回】

当節の話題読み語り 「受験の神様」



新たな年を迎えるのと同時に、昨年同様の寒波襲来、大雪となった2014年の冬ですが、寒さ本番とともに毎年やってくるのが「受験シーズン」ですね。

2014年1月のセンター試験では、手塚治虫さんの自伝的作品『紙の砦』が日本史の問題に登場して話題になりました。「漫画」という表現方法を用いてはいても、歴史、社会問題、勿論SFや人間ドラマを取りあげた文藝作品と、何ら変わるところのない作品も多くあります。なかでも手塚さんの作品群は、誰もが認める、永く伝えられる歴史的な作品だと言えるのではないのでしょうか。2008年、大幅改訂された『広辞苑 第六版』（岩波書店）でも、旧版には無かった「鉄腕アトム」が取りあげられています。

さて、各大学での入試、寒さもまだまだ続きますが、節分が過ぎれば春はもうすぐそこ、サクラの花が満開に咲くことを願って、今回は、受験生の方には是非紹介したい「鬼」のお話しです。

【質問】

本の中に、受験の神様がいると聞いたのですが、どんな神様ですか。（御利益は？）

合格祈願といえば、学問の神様とされる「菅原道真公」の廟所「太宰府天満宮」や、道真公の像を祀ったのを始まりとする「亀戸天神」など所縁の神社が人気ですが、その他にも、平田篤胤の「平田神社（東京・渋谷）」、三人寄れば文殊の知恵と言われる文殊菩薩が安置されている「安倍文殊院（奈良）」「金戒光明寺（京都）」などの寺院も多くの受験生が訪れます。



でも、これらが本の中にいる受験の神様とは聞いたことがありません。

左の図をご覧ください。鬼のような形相のものが、何かを手にして疾走している姿が描かれています。江戸時代の版本には、直径4、5センチほどの、このような「魁星印」という朱印が捺されているものがあります。

これが、本のなかにいる「受験（文運）の神様」です。

この魁星印は、中国の出版が活版だった明代の末、多くの本とともに日本に入ってきました。

「魁（さきがけ）」という字は、大きな柄杓（ひしゃく）という意味を持っていて、北斗七星の柄杓部分の四つの星、或いは、柄杓の先端の第一星のことです。

中国では、星空の中心にいる北極星を天帝に擬（なぞら）え、北斗七星に乗って無数の星たちの先頭となって天を駆け巡るという伝説があります。

この先頭を走る星の姿に、中国では最大の難関、科挙（官僚への登用試験）の合格者が皇帝に謁見する際、成績が一番の者が先頭になることをなぞらえ、文運を司る神様として古くから信奉されてきました。（※先頭の者は、大魁などとも呼ばれます。）

中国では、容量の単位「斗（と）」は「十斗升」「柄杓」を意味する言葉で、「魁」の字を「鬼」と「斗（升；図柄の中の箱のようなもの）」に分けて絵にしたわけです。

手にしているのは筆と墨壺で、科挙受験者の名簿に合格者の点を打つためのものです。



こんな鬼なら「鬼はあ〜、うち〜。」と、招き入れたくなりませんか。

【参考文献】

『中華図像遊覧』 杉原たく哉 大修館 2000

『大漢和辞典 卷十二』 修訂版 諸橋轍次 大修館 1986

『日本大百科全書 第十九巻』 小学館 1994

● レファレンス申込み及び問い合わせ先

青森県立図書館 参考・郷土室 電話 017-729-4311

FAX 017-762-1757

電子メール sanko@plib.pref.aomori.lg.jp

～ プチコラム ～

[県立図書館だより第16号](#)で「館内テーマ展示のさまざま」をご紹介しましたが、参考・郷土室では、旬な話題をいち早く皆様にお届けするためのテーブル展示を行っています。

今回の「こんなレファレンスがありました」でも「鬼」の話題がありました。参考・郷土室では「鬼のほん」「鬼と呼ばれた漢（おとこ）たち」「おまめさんのほん」などを集めて展示しています。

しかし、これも節分の2月3日まで。新たなテーブル展示をお楽しみに！



テーブル展示「鬼のほん」

子どもの本の紹介（第18回）

児童閲覧室では、毎月いろいろなテーマの本を展示し、子どもたちに紹介しています。
2月の展示テーマは、「**きつね**」です。

そこで今回は、「**きつね**」が登場する本を2冊ご紹介します。

『きつねのよめいり』

松谷みよ子/さく 瀬川康男/え 福音館書店 1976 (E かわりや 集密)

急に日照り雨がぱらぱらと降ってきました。おじいさんが空を見上げると、きつねの嫁入り行列が、空にかかった虹の上をわたっていました。その行列の花嫁ぎつねは、おじいさんが大切に育てた「おさとぎつね」だったのです。

この作品は、福音館書店の月刊絵本「こどものとも」53号（1960年8月号）に発表されました。『いないいないばあ』（松谷みよ子/著 童心社）などで知られる瀬川康男さんの絵本デビュー作です。

『ともだちや』

内田麟太郎/作 降矢なな/絵 偕成社 1998 (E かわりや A05A)

「えー、ともだちやです。ともだちは いりませんか。」

キツネは、1時間100円で友達になってあげる「ともだちや」をはじめました。

でも、「ともだち」って、お金で買えるのでしょうか。

「おれたち、ともだち！」シリーズの第1作目。

降矢ななさんの描く、動物たちの表情が魅力的な作品です。

昨年度から当館で実施している「[高校生による、子どもの読書活動アシスト](#)」事業で、[田子高等学校](#)の皆さんが「きつね」のディスプレイを作成してくれました。

さらに今回は、[青森西高等学校](#)と[弘前工業高等学校](#)の高校生が描いた原画をもとに、きつねのぬりえを募集し、児童閲覧室奥の読書スペースで展示しています。

ぜひご家族でご覧ください。

展示期間は、1月24日(金)から2月26日(水)までです。



制作：青森県立田子高等学校



原画：青森県立青森西高等学校



原画：青森県立弘前工業高等学校

児童閲覧室が 素敵なきつねで いっぱいになりました。

ご協力、ありがとうございました。

郷土資料 の 紹 介 (第 18 回)

県内には「ろうそく岩」、「山のけんか」、「八の太郎」など、たくさんの民話があります。

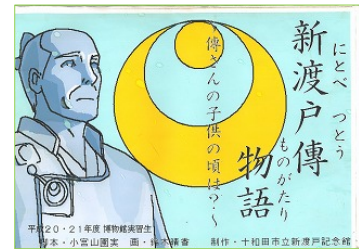
民話は、その地域の歴史や人々の姿が伝えられているものや、教訓が盛り込まれているものなどいろいろな話があり、読み語りや絵本、紙芝居などによって、たくさんの人々に伝えられてきました。

十和田市では、この地域の郷土史愛好家のボランティアにより、地域で語り継がれてきた昔話や民話をアレンジした創作民話紙芝居『稲生川ときつね』（児静画KC けつ）、『まちづくりときつね』（児静画KC マチヅ）、『初田のカッパ』（児静画KC ハツタ）、『新渡戸傳物語』（児静画KA ニトベ）、『瀬戸山のおはなし』（児静画KC セトヤ）、『箭受の杜』（児静画KC ヤケ）の6作品が制作されています。

地域の歴史や伝承を現代にわかりやすく伝えるために工夫された紙芝居の脚本や絵は、すべてボランティアの手作りによるものです。

これらは、十和田市立新渡戸記念館の活動を支える地域住民により構成された市民ボランティア団体

「Kyosokyodo（共創郷土）」のホームページ（<http://www.kyosokyodo.jp/>）でも見ることができるほか、同館では、紙芝居の読み聞かせも行われています。



『新渡戸傳物語』



『瀬戸山のおはなし』



『虫おくり』

また、五所川原市の公益社団法人五所川原青年会議所により、地域の農耕儀礼を題材とした絵本『虫おくり』（児郷/384.31/マツノ*）と紙芝居『虫おくり』（児静画/KA/ムシオ）が制作されました。

この絵本と紙芝居のお話や絵なども地元の方々によるもので、「奥津軽と火まつり」親善大使に任命された高校生たちが小学校を訪れて読み聞かせを行うなど活用されています。

青森県立図書館では、青森県に関する資料や青森県内で刊行された資料、青森県在住者・出身者の著作物等を郷土資料として積極的に収集し、永く保存するとともに、県内外の皆様にご活用いただいております。

今回このコーナーで取り上げた資料は当館でも所蔵しており、いずれも館外貸出が可能です。ぜひ、ご利用ください。

近代文学館資料の紹介(第18回) 「高木恭造の世界」展示資料

青森県近代文学館では、新収蔵資料展「高木恭造の世界」を平成26年3月16日まで開催しています。方言詩集『まるめろ』によって全国に知られることとなった高木恭造の文学活動とその背景を、近年新しく当館蔵となった高木恭造ゆかりの資料とともに紹介しています。公開中の資料から2点を紹介します。



検眼セット

高木恭造は、戦後、弘前で眼科医院を開業します。この検眼セットは、高木眼科医院で用いられていたものです。

文学の道を歩む「詩人」恭造と、生活者としての「医師」恭造は、反目し、軽蔑し合いながらも、人生を共に歩んできました。

恭造は、代々続く医師の家に生まれましたが、父・兄の期待とうらはらに医師になることを拒絶します。実家を飛びだした恭造は、小学校の代用教員を経て官立弘前高校に入学。卒業後、青森日報という新聞社に勤務します。ここで主筆を務める詩人・福士幸次郎と出会い、方言詩に目覚めます。後、東京へ出て出版社に勤務しますが、生活に行き詰まり妻とともに満州に渡ります。しかし、ここでも困窮し、結局、満州医科大学に入学して眼科の医師となりました。

ミニチュア機関車

このミニチュア機関車は、金属製で、非常に精巧に作られており、実際に持ってみると、見た目以上のずしりとした重量感に驚かされます。

恭造は、幼いころから汽車が大好きで、3、4歳ごろから小学校を卒業するころまで毎日のように汽車を見に行っていたそうです。特に貨車の入れ換え作業が好きで、飽きることなく眺め続けたといいます。

25歳で満州に渡った際も、幼い頃からの夢だった鉄道機関士になろうとしますが、近眼のせいで望みをかなえることはできませんでした。

恭造の汽車好きは生涯変わることなく、老境に入ってからでも、座敷にレールを敷き、このミニチュア機関車を走らせては、子どものように喜んでいました。



カウンターからひとこと (第18回)

今回は、「マイクロフィルム」と「マイクロリーダー」についてご案内します。



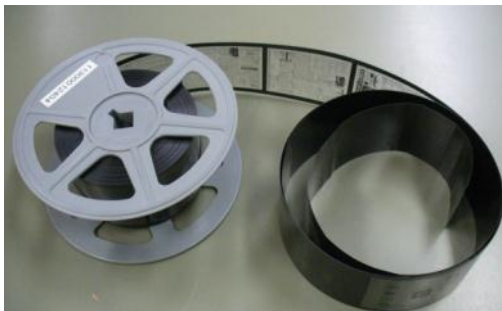
マイクロフィルム・マイクロリーダーとは？

マイクロフィルムとは、古文書などの貴重な文献や新聞等を写真撮影によって肉眼では判別できないくらい縮小したもので、保存寿命は100年を超えているといわれています。

資料をマイクロフィルムにすることは、原資料を破損や劣化から防ぎ、長期保存することに役立っています。

マイクロリーダーは、マイクロフィルムを閲覧するための専用機器です。

当館では、閲覧のほか、希望の箇所を複写することができます。



◀ マイクロフィルム

普段はリール状で保存しています。

▶ マイクロリーダー



新しいマイクロリーダーを1台設置しました！

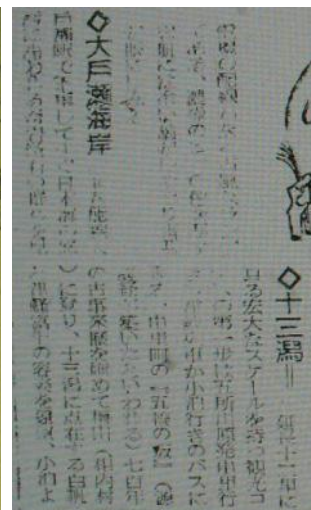
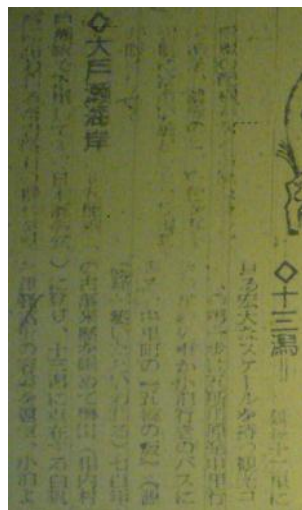
これまでのものと違い・・・

- **画像が鮮明**で、見やすくなりました。**印刷もキレイ**な仕上がります。
- **モニターに直接触れるタッチパネル式**の操作が可能です。
- **機器がコンパクト**になり、**ゆったりとした作業スペース**でご利用いただけます。



▲ 新マイクロリーダー

同じ新聞記事の比較をしました。▶
左：従来のリーダーでの画像
右：新しいリーダーでの画像



ご利用の際は、カウンターへお気軽にお申し付けください。